

応用ミクロ経済学 A

鈴木 豊

管理 ID: 1403390
授業コード: X3021

【授業のテーマ】

「応用ミクロ分析」への活用を念頭に置いて、「契約理論 (Contract Theory)・ゲーム理論 (Game Theory)」を講義する。前半は次のトピックを取り扱う。

- (I) 不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
- (II) プリンシパル=エージェントの理論:モラルハザード
- (III) プリンシパル=エージェントの理論:アドバースセクション

【授業の到達目標】

受講生は、「契約理論・ゲーム理論」の考え方・分析の仕方を修得し、「応用ミクロ分析」に積極的に活用して、修士(博士)論文の執筆に生かせるようになることが期待される。

【授業の概要と方法】

黒板を使つての講義授業。教員の説明を聞きながら学生がノートを取り、理解して行くという伝統的スタイルで行われる。もちろん、説明を繰り返し、黒板で図を使い、レジュメなども配って学生の理解を助ける工夫は出来るだけする。

【授業計画】

春学期前半

| 回 | テーマ | 内容 |
|--------|-------------------------------|---|
| 第 1 回 | 不確実性と情報の経済学① | 不確実性とくじ、期待効用最大化仮説、リスク態度 (リスク回避、リスク中立、リスク愛好) |
| 第 2 回 | 不確実性と情報の経済学② | 期待効用最大化とその使い方、最適化の 1 階条件、リスクプレミアム |
| 第 3 回 | プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード① | エージェンシー理論の導入、固定給とモラルハザード (Moral Hazard) |
| 第 4 回 | モラルハザード② | 歩合給とインセンティブ効果、インセンティブスキームの直観的説明 |
| 第 5 回 | モラルハザード③ | 簡単なエージェンシーモデルの解 (リスク中立的エージェント) |
| 第 6 回 | モラルハザード④ | インセンティブ契約の数学モデル (リスク回避的エージェント) |
| 第 7 回 | 複数エージェントの理論① | チーム生産①ナッシュ均衡、支配戦略均衡とフリーライダー現象 |
| 第 8 回 | 複数エージェントの理論② | チーム生産②フリーライダー問題を解決する仕組み。ペナルティスキームなど。 |
| 第 9 回 | オークションとゲーム理論① | ゲーム理論の解概念の確認：支配戦略、弱支配戦略、被弱支配戦略の繰り返し削除など |
| 第 10 回 | オークションとゲーム理論② | セカンド・プライス・オークション |
| 第 11 回 | オークションとゲーム理論③ | ファースト・プライス・オークション |
| 第 12 回 | プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セクション① | 逆選抜 (Adverse Selection) |
| 第 13 回 | アドバース・セクション② | 逆選抜を解決する仕組みとしての自己選抜メカニズム①導入 |
| 第 14 回 | アドバース・セクション③ | 自己選抜メカニズム②展開 |
| 第 15 回 | アドバース・セクション④ | 自己選抜メカニズム③応用 |

【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

授業内容 (授業ノート) および配布資料の理解と確認をその都度行っていくこと。その他詳細は授業内で指示する。

【テキスト】

特に指定しない。授業の中で、レジュメや参考資料の配布、参考文献の指示を行う。

【参考書】

- ① マクミラン『経営戦略のゲーム理論』(伊藤, 林田訳) 有斐閣
- ② ミルグロム+ロバーツ『組織の経済学』(奥野, 伊藤他訳) NTT 出版
- ③ ラジアー『人事と組織の経済学』(樋口, 清家訳) 日本経済新聞社
- ④ Bolton and Dewatripont, Contract Theory, MIT Press
- ⑤ 鈴木豊 情報経済論 web site
<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~yutaka/jouhou.htm>
- ⑥ 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣
- ⑦ 鈴木豊 (監修)『ズバリ図解 ゲーム理論』ぶんか社文庫
- ⑧ 鈴木豊 (編)『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010 年

【成績評価基準】

中間試験による。ただし、レポート (1 回) を課すこともありうる。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

一部の数学的手法につまずき、あるいはそこに気を取られすぎ、全体像の理解、本質的アイデアの理解に近づけない学生もいるので、説明はできるだけ分かりやすく、あるいは繰り返し行うように心がけたい。またレポート (宿題) は、理解を定着させ、色々な応用例を考えさせるうえで役に立つので、適切に利用したい。

【担当教員の専門分野等】

ミクロ経済学、契約理論、ゲーム理論、企業の理論、制度の契約理論的分析など



応用ミクロ経済学 B

鈴木 豊

管理 ID: 1403391
授業コード: X3022

【授業のテーマ】

前半の続きを講義する。トピックは次の通りである。

- (IV) 不完備契約 (Incomplete Contracts) と企業理論
- (V) 関係的契約 (Relational Contracts) の理論とその応用
- (VI) 新しい方向：行動ゲーム理論と契約理論

【授業の到達目標】

受講生は、「契約理論・ゲーム理論」の考え方・分析の仕方を修得し、「応用ミクロ分析」に積極的に活用して、修士(博士)論文の執筆に生かせるようになることが期待される。

【授業の概要と方法】

前半箇所を参照。

【授業計画】

春学期後半

| 回 | テーマ | 内容 |
|--------|----------------------------|---|
| 第 1 回 | 不完備契約：ホールドアップ問題① | 関係特殊の投資とホールドアップ問題①導入と基本モデル |
| 第 2 回 | 不完備契約：ホールドアップ問題② | 関係特殊の投資とホールドアップ問題②モデルの一般化 |
| 第 3 回 | 不完備契約：ホールドアップ問題③ | 関係特殊の投資とホールドアップ問題③外部機会、交渉形態など |
| 第 4 回 | 不完備契約：「資産所有 (財産権)」アプローチ① | グロスマン+ハート+ムーアの「資産所有 (Asset Ownership)」アプローチ①基本モデル |
| 第 5 回 | 不完備契約：「資産所有 (財産権)」アプローチ② | グロスマン+ハート+ムーアの「資産所有 (Asset Ownership)」アプローチ②応用と展開 |
| 第 6 回 | 不完備契約：権限配分、権限委譲 | アギオン+ティロールの「組織における権限配分、権限委譲」のモデル |
| 第 7 回 | 不完備契約：統合 vs 非統合、集権化 vs 分権化 | ハート+ホルムストロムの「企業範囲 (Firm Scope)」の理論とその応用 |
| 第 8 回 | 不完備契約：金融契約① | アギオン+ボルトンの「状態依存型コントロール」のモデル |
| 第 9 回 | 不完備契約：金融契約② | アギオン+ボルトンのモデル：企業統治への応用 |
| 第 10 回 | 関係的契約① | 基礎原理：「繰り返しゲーム」と「トリガー戦略」 |
| 第 11 回 | 関係的契約② | 企業間の関係的契約：トヨタ流の長期的協調関係の構築によるホールドアップ問題の解決 |
| 第 12 回 | 関係的契約③ | 企業内の関係的ボーナス |
| 第 13 回 | 関係的契約④ | Self-enforcing Contracts |
| 第 14 回 | 行動ゲーム理論① | コース、ノース、ウィリアムソンと「コミットメント問題」 |
| 第 15 回 | 行動ゲーム理論② | 最後通牒型交渉ゲーム：理論と実際 不平等回避モデル、互恵性モデル |

【授業外に行うべき学習活動 (準備学習等)】

授業内容 (授業ノート) および配布資料の理解と確認をその都度行っていくこと。その他詳細は授業内で指示する。

【テキスト】

特に指定しない。授業の中で、レジュメや参考資料の配布、参考文献の指示を行う。

【参考書】

- ① Hart, O "Firms, Contracts, and Financial Structure" (Oxford University Press) オリバー・ハート 『企業・契約・金融構造』 (鳥居訳) 慶応大学出版会
- ② ミルグロム+ロバーツ 『組織の経済学』 (奥野, 伊藤他訳) NTT 出版
- ③ 鈴木豊 情報経済論 web site
<http://prof.mt.tama.hosei.ac.jp/~yutaka/jouhou.htm>

- ④ Bolton and Dewatripont, Contract Theory, MIT Press
- ⑤ 岡田章 『ゲーム理論・入門』 有斐閣
- ⑥ 鈴木豊 (監修) 『ズバリ図解 ゲーム理論』 ぶんか社文庫
- ⑦ 鈴木豊 「日本企業のコーポレートガバナンス」をゲーム理論で解く—企業間取引関係と内部組織改革— 『ゲーム理論で解く』 (中山・武藤・船木編) 有斐閣
- ⑧ 鈴木豊 (編) 『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』 法政大学出版局 2010 年

【成績評価基準】

期末試験による。ただし、レポート (1 回) を課すこともありうる。

【学生による授業改善アンケートからの気づき】

一部の数学的手法につまずき、あるいはそこに気を取られすぎ、全体像の理解、本質的アイデアの理解に近づけない学生もいるので、説明はできるだけ分かりやすく、あるいは繰り返し行うように心がけたい。またレポート (宿題) は、理解を定着させ、色々な応用例を考えさせるうえで役に立つので、適切に利用したい。

【担当教員の専門分野等】

ミクロ経済学、契約理論、ゲーム理論、企業の理論、制度の契約理論的分析など